

学校始まりました、今月はキャンプに向けて準備です。



No.330
令和2年7月10日発行
社会福祉法人円福会
円福寺愛育園
園長 藤本光世

おひやり

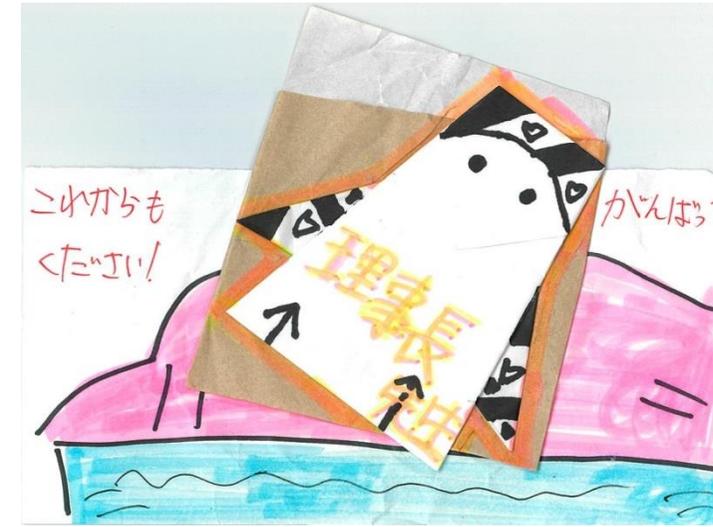
父の日

園長 藤本光世

毎年、母の日と父の日は、子どもたちが職員に寄せ書きとプレゼントで感謝の気持ちを表します。ここに、子どもたちと職員の交流があります。

今年の父の日のプレゼントは、あおぞらの子どもたちが作ってくれたハンガーとまごころの子どもたちが作ってくれたコースターでした。

私は、それに加えて、かわいい手紙をもらいました。



昨年は、子どもたちが荒れていてディズニーランドに連れていけなかったのです。手紙を読んで、子どものディズニーへのいじらしい気持ちが伝わってきます。

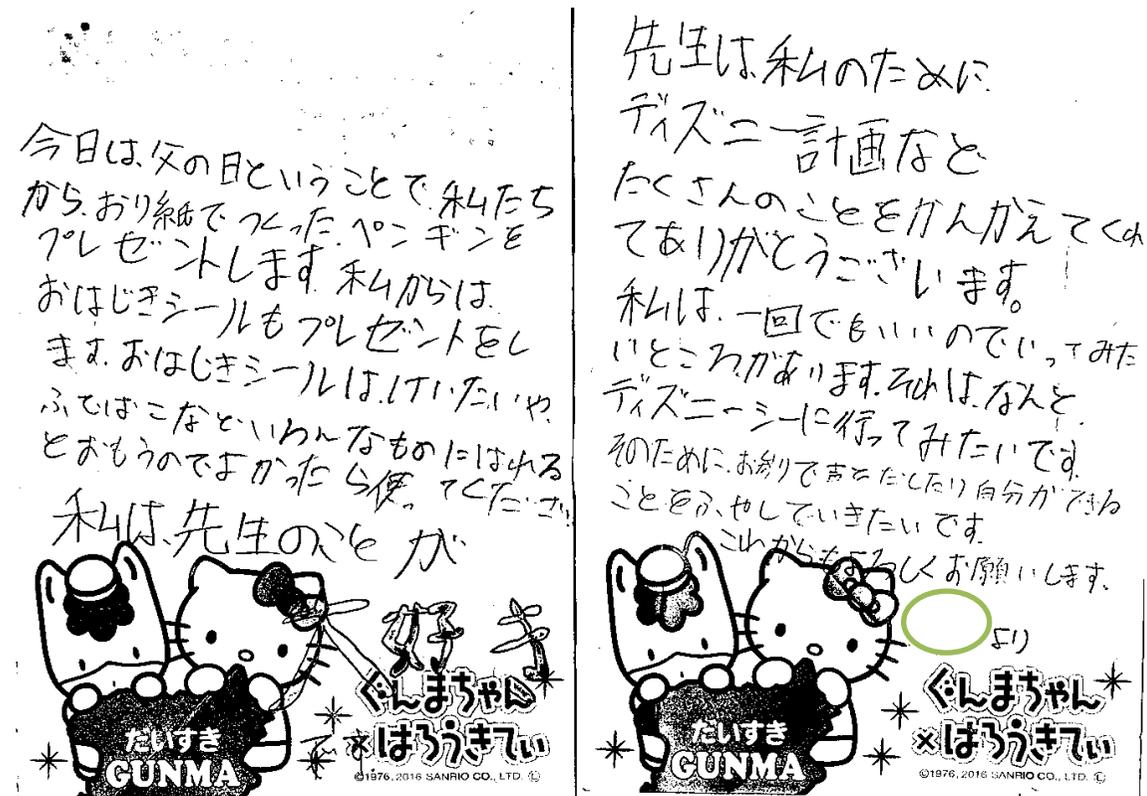
アフターケア

施設を卒園した子は、一人で生きていかなければなりません。長野県社会的養育推進計画では、卒園児を支えるアフターケアの充実が求められています。本当のアフターケアとは、卒園してからも施設と心がつながっていることではないでしょうか。それは、卒園児が施設の生活を感謝で受け止めていることが基礎にあって初めて成り立つことです。

この3月の卒園式の時に、3人の卒園児に、毎月末に手紙を書いて愛育園の担当の先生に送るようお願いしました。書いてくれるかなあと心配していましたが、3人とも、毎月自筆の手紙を届けてくれます。とても嬉しいです。封を切って読むのが楽しみです。みんな、日々進歩し変化し頑張っています。手紙を読むと卒園児と愛育園がつながっていることを感じます。朝のおまいりで子どもたちに手紙を読んであげます。子どもたちも、卒園児が頑張っていることを知って、うれしそうです。ここにこして聞いています。卒園児の生活の様子は、子どもたちにとって卒園してからの心構えにもなるでしょう。

担当だった職員には返事を書くようお願いしています。こうして、卒園児と愛育園が繋がります。卒園児の生活が愛育園の子どもたちに良い影響をもたらします。卒園児も生活に張り合いが持てます。これこそアフターケアです。

卒園児と毎月の手紙で交流することができるようになったのは、今年が初めてです。それだけ愛育園の養育力が向上しました。嬉しいです。全国のどこの施設にもないようなアフターケアを目指します。卒園してからも愛育園と心が一体となって生活できれば、立派で成功する人生を歩めるで



に向けて学習計画を立てて、それに沿って勉強をしています。目標点数は350点以上です。目標を達成できるようにがんばりたいと思います。

(中1・Sさん)

学校が始まって

主任指導員 富沢正樹

いよいよ6月から登校が再開されました。子供たちは毎日嬉しそうに登校しています。夕方、園に帰ってくる子供たちの様子を見ると、久々の学校で疲れ切っている中にもどこか充実したような顔つきをしており、「きっと勉強がんばったんだろうなあ」とか「友達と大はしゃぎで遊んだんだろうなあ」と想像し、改めて学校という場所の有難みを感じています。

中には苦戦している子もいます。高校に入学したN君は、なかなか友達が作れず、学校ではいつも一人でいて、お弁当も自席で寂しく食べています。中学校であれば、給食があるし、なんとなく皆で食べている雰囲気がありますが、高校という場所はある種そういった誤魔化しが利きません。N君のそういった状況を想像すると「なんと苛酷な状況か」と胸が押し潰されそうな気持ちになります。加えて、2か月以上も愛育園という自分を出せる場所で過ごしてきた所から登校が再開されたので、反動も大きかったのではないかと思います。それでもN君は毎日休まず、決まった時間に登下校しています。絶対辛さを感じているはずなのに誤魔化す事も逃げ出す事もしないN君に心の強さを感じ、それは、これまで心の鍛錬を続けてきた賜物だと思います。社会性や社交性がある事はとっても大事な事ですが、N君の様に困難を困難とも思わず、正面からぶつかって行って動じない心の太さを育てていく事は真に大切な事だと思います。

そんなN君には、私も「こうしてみたら、ああしてみたら」といった中途半端な指摘はせず、「大丈夫、間違っていないよ」「大丈夫、そのままがいいよ」と全力で肯定します。N君の人柄の良さは必ず伝わるから大丈夫。という意味です。

学校は楽しい場所であると同時に、試練を与えてくれる場所であると思います。子供の課題や特徴がより浮き彫りになります。だから有難いと思うのです。その試練を児童と一緒にクリアして、また新たな課題と出会う。その繰り返しで子供たちはどんどん成長していきます。その成長に私たち職員は喜びを感じます。

コロナウィルスの拡大はまだまだ心配される所ではありますが、学校再開は非常に嬉しく感じています。新たな気持ちで子供たちと向き合っ、子供たちの成長を支えていきたいと思っています。

学校が始まって あおぞら 児童作文

6月1日から学校が始まって3週間が終わりました。その中で、1週間は、ちゃんと授業を受けられず、2週目からは、ちゃんと授業を受けられました。そして、友達と話をしたり遊んだりできてとてもうれしいです。でも、たまにケンカをしてしまうこともあります。その中、担任の先生が話を聞いてくれたりもあります。なのでがんばりたいことは、じゅぎょう中に、出歩いたり、友達と遊んでるときに、ケンカをしないようにしたいです。おうえんおねがいます。

(小4・S君)

学校が始まって、いつもどおりのべんきょうが始まりました。ひさしぶりの学校があまりわからないこともあるけどだんだん慣れてきてべんきょうがやりやすくなってきました。その他に今頑張っていることは、ちゃんと授業を聞くことです。今もがんばっています。

(小5・K君)

6月1日に久しぶりの学校が始まりました。はじめは5時間でしたが、15日から6時間目になりました。つかれがたまった土曜と日曜によくねます。だけど学校は、楽しくて、友達と遊んだりします。明るいでも遊び道具で遊んで、楽しく遊んでいます。次の学校が楽しみです。

(小6・R君)

僕は、学校が再開して頑張ることは、無事、卒業できるように、学校での授業、生活をしっかりとやることです。中学では授業が最後までちゃんと受けれなかったり、問題を起こしたりして、悪いことを何回もしてしまいました。なので、高校を退学にならないように、落ち着いた高校生活にしたいです。

(高1・N君)

父の日の会

あおぞらホーム 大山豊彦



6月21日は父の日でした。

園では、「父の日の会」が開催され、子どもたちから素敵なコースターとかわいいハンガー、メッセージパネルともらいました。

子供たちから「これからもっといっぱい遊んでね」「もっといっぱいお話してね」と書いてあり、これからもっと子ども達と楽しく、笑って過ごせたらな

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

と思いました。私はまだお父さんになっていないので、父の日にこうして祝ってもらえるとは思っていませんでしたが、本当に嬉しく思います。そしてこれを機会に父の日はどうして出来たのか調べてみました。

父の日は、ソノラ・スマート・ドットというアメリカ人女性が父親への感謝の日を作りたいという思いから始まりました。南北戦争から復員した彼女の父親が男手一つで6人の子どもを育て上げ、とても深い愛情を受けて育つことが出来たそうです。そしてその父の偉業を称えようと1910年に父の日の式典が開催され、1916年の式典で第29代アメリカ大統領により正式に父の日が制定されたそうです。

子供達からの思いの籠ったプレゼントを見ると、気が引き締まるとともに私も父親のような深い愛情をもって子供たちと接するよう心がけたいと思いました。

父の日の会 おおぞら 児童感想

さいしょわたすときはきんちょうしました。ぼくがわたした先生は大山先生と石龍先生です。写真もとりました。

(小3 T君)

ぼくは、山田tと大山tと園長tにわたしました。たのしかったし、うれしかったです。またいっぱいしたいです。

(小4 S君)

6月21日に父の日がありました。ぼくのたんとうは山田先生です。山田先生にこうかきました。「いつもありがとうございます。これからもおねがいます」と書きました。

(小6 R君)

父の日に、プレゼントをわたしました。コースターとオリジナルハンガーとメッセージが書いてあるボードをわたしました。ぼくは富澤先生にハンガーを作りました。きれいに作れたので良かったです。ぼくは、富澤先生にプレゼントをわたしました。

(中1 R君)

父の日の会 まごころ 児童感想



6月21日に父の日の会がありました。今年は、父の日の会でコルクボードに写真とメッセージカードを貼りました。まごころさんはコースター、おおぞらさんはハンガーを作りました。私は、コルクボードのかざりつけをしました。工夫したところは、リボンのところをきちんときれいにしたり、長さをそろえたところです。作ってみて、少し難しいところがあったけど、最後まできれ

(令和2年7月10日発行 月刊「円福」478号付録)

いに作れてよかったです。父の日当日にわたしたらみんなよろこんでくれたのでうれしかったです。(小6・Tさん)

6月21日に父の日の会がありました。前から、プレゼントの準備をしていました。私は、メッセージカードを作ったり、コルクボードにみんなが書いたメッセージカードのはりつけをしました。おおぞらの先生たちに喜んでもらえるように、ていねいに作りました。父の日の会では、プレゼントを受け取ったおおぞらの先生たちが喜んでくれてよかったです。先生たちには、いつもお世話になっているので、感謝して生活していきたいです。

(中1・Uさん)

少年野球発足式

おおぞらホーム 倉島誠



6月20日(土)に愛育園少年野球チームの発足式を行いました。昨年度末から、台風19号の被害により、活動の拠点としていた横田グラウンドが水没してしまい、主な練習場所を園の体育館と言う中で行ってきましたが、先日のコロナウイルスの影響もあり、三密を防ぐため、活動自体を自粛していました。活動再開に伴って、愛育園少年野球チームに外部から参加して下さっている田中さんのご協力もあり、合戦場公園をお借りして練習をさせて頂けるようになりました。本当に感謝の思いで

いっぱいです。子どもたちも久しぶりの外での練習にワクワクしており、やる気に満ち溢れていました。

発足式では、キャプテン、副キャプテンの発表、1人1人の抱負を言ってもらいました。キャプテンは練習や試合中でも一番声をだし、仲間を応援することができる、この少年野球チームでも一番試合経験があるH君にお願いしました。副キャプテンは、A君とR君にお願いしました。どちらも野球が大好きな二人で、しっかりとH君を支えていてもらいたいです。抱負では、6年生のMさんが「最後の年なので、お手本となるよう野球以外の挨拶や道具の片付けを頑張りたい」と言っていたり、Tさんが「最後の年なので、悔いが残らないよう一生懸命やりたい」と、2人ともとても立派な抱負を言ってくれ、頼もしいという気持ちと最後かという気持ちになりました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

円福寺愛育園少年少女野球団は小学3年生1名、4年生4名、5年生4名、6年生4名の13名で活動しています。今年から新たに2名の子が外部から集まって下さりとても活発に活動しています。私自身も少年野球チームに携わらせて頂いて、3年目を迎えます。嬉しいことに、子ども達全員野球をすることに對して、とてもやる気です。野球をとおして、チームスポーツや道具の大切さ、感謝・礼儀等、また心を強くできるよう選手と共に成長していけたらと思います。今年一年もよろしくお祈りします。



西横田地区ボーリング大会

あおぞらホーム 山田忍

6月14日 西横田地区児童会のボーリング大会があり、小学生全員で参加してきました。当初、コロナの影響もあり開催するかどうか危ぶまれていて、子ども達も心配していましたが地区PTAの役員会で開催することが決まりました。

子ども達には決まってすぐには伝えていなかったのですが学校で友達から聞いてきたようで次の日帰ってきてすぐに「来週の土曜日ボーリング大会あるんでしょ!」とみんなに声をかけられました。今回が生まれて初めてボーリングをする、という子もいてみんな張り切っていました。本番当日はみんなストライクを狙って気合が入っていました、初めての子もそうでない子もみんなセンスがよくとても盛り上がりました。全体順位の上位は参加人数も多かった愛育園の子が占め景品にお菓子とジュースをもらい、それぞれのスコア表を大事に持ち帰ってきて他の先生達にも自慢げに見せていました。昼食の時も「ストライクとったんだよ」「全部倒せたよ」など話が盛り上がりました。とても楽しい行事になりました。

西横田地区ボーリング大会 児童感想



6月14日ボーリングがありました。最初にボーリングのれんしゅうをしました。なかなか当たらなかったです。2回目は1回目と同じでした。2回目で全部当てました。うれしかったです。

(小3 T君)

6月14日ボーリング大会がありました。ストライクとかスペアがいっぱい当てました。楽しかったです。

(小5・K君)

6月14日に、ボーリング大会がありました。チームは、僕とK君とH君とY君でやりました。

(令和2年7月10日発行 月刊「円福」478号付録)

ストライクを2回とって、スペアを何回かとりました。2ゲームをして、全部のピンをあわせたら191でした。六年生のなかで一位で、おかしをチョコチップをもらい嬉しかったです。園の先生達に一位だったよとおしえたら、すごいいわれました。うれしかったです。また園でも行きたいです。

(小6・R君)

6月14日の午前に、篠ノ井アピナボウリング場に行ってボウリング大会をしました。チームはT君とM君と自分でした。自分はそのチームで2位でした。そして、総合で5位、学年では1位でした。うれしかったです。試合は、スペアが3回、ストライクが1回でした。ストライクをスペアよりたくさん出せるようになりたいと思いました。

(小4・S君)



6月14日に地区のボウリング大会がありました。

1ゲームの得点は74点で、2ゲームは112点で、合計が186点でした。地区の中では4位でした。私はストライクが1回と、スペアが4回とれてうれしかったです。コロナウイルスでなかなか地区の行事ができなかったけど、ひさしぶりにボウリング行事ができてよかったです。今日は楽しい一日でした。

(小6・Yさん)

あおぞらホームだより



あおぞらホーム 畔上裕吾

新型コロナウイルス感染拡大により、小・中・高と約3か月間の休校の措置が取られていました。臨時休校中は、学校からの課題に取り組んだり、午後は山へ昆虫採集や川遊びへ行ったり、スポーツをして体を動かすなど、園の子どもたちは休校期間中充実した日々を過ごすことが出来ていたのではないかと思います。政府からの緊急事態宣言も解除され、6月からは学校が再開し、園の子ども

たちも毎日元気に登校しています。また、学校が再開したことにより、授業や部活動も始まり、いよいよ本格的な学校生活が始まりました。特に中学校1年生は部活動から帰ってくると疲れた様子

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

がみられたりもしますが、帰園後の学習は期末テストに向けてしっかりと取り組んでいます。中学生になってから初めての定期テストが期末テストということもあり、学習する範囲が広がっているとは思いますが、自分の中でのベストを尽くしてもらいたいです。

6月に入り、それと同時に梅雨に入り、日によっては気温差も大きく、体調を崩しやすい季節でもあると思います。子どもたちも学校に慣れてくる頃ではありますが、同時に疲れも溜まってくる頃ではないかと思えます。体調管理に気をつけ、寒くなったら上着を羽織るなど、しっかりと体温調節をしながら日々の園での生活や学校での生活を送って欲しいです。

まごころホームだより

まごころホーム 中村茉莉歌



6月から幼稚園、小・中・高がスタートしました。本来は4月からなのですが、今年は新型コロナウイルスの影響でスタートが遅れていました。そんな中、登校していく子どもたちからは嬉しさや不安、色々な雰囲気を感じました。新1年生は新たな環境で更に、不安があったと思えます。最初は疲れたような表情で帰ってきたりしていましたが、1ヶ月経った今では、新しく覚えたことや、新しくできた友達の話をしてくれます。新たな

部活に入った子もいます。自分の好きな事に本格的にやることのできる部活に、真剣に取り組んでいるのが分かります。中3、高3の子どもたちは、進路を考える時期になりました。自分の行きたい学校、やりたい夢に向けて進路を決めていっています。少しずつ行きたい所などが決まっていますが、その分、今よりもっと頑張っていかなければなりません。それを支え、応援していきたいです。幼児さんも、毎日頑張って登園しています。最初は「行きたくない」と渋っていましたが、最近では楽しい、こんな遊びをしたよと教えてくれます。長期休みや、外出自粛の中では、中々思い切り動かさず出来ず、子どもたちにもストレスや負担になっていたと思えます。今では、登園、登校した際に友達と思い切り遊び学んで、毎日が楽しそうです。

まだ、コロナが収まった訳ではありませんが、全員で手洗い、うがいや、3密を避けるなど、できることをして、子どもたちと笑って、元気に過ごしていきたいです。

調理室だより

栄養士兼調理員 原未華

6月に入り、異常な暑さが続く日もあれば、梅雨の時期なので雨が降りやすくなり、ジメジメと

(令和2年7月10日発行 月刊「円福」478号付録)

して少し過ごしにくい時期になりました。

本格的に学校が始まり、子供たちが学校に行けることに安心しました。学校に行き始めて数日は食堂に来る子供たちを見て、疲れているように感じ、私たち調理も心配しましたが、毎日元気よく過ごしている子供たちも見て、うれしく思います。

勉強、部活、アルバイトとあり、子供たちも大変なことがあります。無理しすぎないように頑張っていて欲しいと思います。

6月は誕生日の子はいませんでしたので、誕生日メニューはありませんでした。虫歯予防メニュー、月遅れ節句メニュー、父の日特別メニューをしました。

6月4日虫歯予防メニュー：麦御飯、魚の磯辺揚げ、カミカミサラダ、ひたし豆

6月5日：月遅れ節句メニュー：御飯、油淋鶏、マセドアンサラダ、卵豆腐、アイスクリーム

6月21日：父の日特別メニュー：御飯、ミルフィーユカツ、マカロニサラダ、すいか

これからさらに暑くなってきて、熱中症や食中毒には十分に気を付けていきたいと思えます。今の状況で一番大切なことは健康でいることだと思います。その為には日々の食事が大事になっていきます。調理の中で意見を出し合っていて考えながら、子供たちの健康を含めて陰ながら支えていきたいと思えます。